

社会科学習指導計画面案

指導教員 [] 教諭

授業者名(教生) []

日時 平成 29年 6月 15日 (木) 3限

学年 第1学年1組 (男 19名・女 19名/計 38名)

1. 単元名 東アジアの中の倭 (日本)

2. 指導観

(1) 指導の意義

本単元では、氷期が終わった約一万年前の日本列島に焦点を当てる。世界で農耕・牧畜が始まって文明がおこり国家が形成されていった中で、我が国は特に東アジアと深いかかわりをもちながら発展した。時代が進むにつれ狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、ヤマト王権による統一と東アジアとの関わりなどを通して、我が国で国家が形成されていったことを理解させる。以上の内容から、大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる。

(2) 生徒の知識・理解・意欲の状況について

本学級の生徒は、歴史分野に於いて小学校での学習で得た知識があり、知名度の高い事物の名称や人物等は理解している様子である。意欲に関しては差があり、特に興味のある分野を自主的に学習している生徒がいる。発表やペアワークは積極的に行われ、活気がある。

3. 指導計画

| | 担当 | 指導事項 | 時間 | 備考 |
|------|-----|-------------|-----|------------|
| 配当時間 | 第一次 | 縄文から弥生への変化 | 一時間 | 本時の扱いは4時間目 |
| | 第二次 | ムラがまとまりクニへ | 一時間 | |
| | 第三次 | 鉄から見えるヤマト王権 | 一時間 | |

4. 本時の学習指導

(1) 本時の学習「鉄から見えるヤマト王権」

(2) 本時の指導観

弥生時代には大陸から稲作が伝わったことにより、土地や水を巡るムラ同士の争いが頻発するようになった。繰り返される争いの中で強力な指導者が周辺のムラを束ね、クニが成立した。その指導者が後に豪族となり、自らの富と権力を表した大型の古墳を作らせるようになったことから、弥生時代に身分制度が定着しつつあることを気付かせる。

また、外交に於いては朝鮮半島と強く結びつき、百済と共闘したヤマト王権に触れる。朝鮮半島から鉄の延べ板を入手したヤマト王権が倭国の中でも優位に立っていることを「各地の豪族がヤマト王権と繋がりをもちたがった」という行動から理解させる。加えて当時は鉄がそれほど貴重なものであったことを気付かせる。ヤマト王権は、豪族たちに朝鮮からの鉄や技術を授ける代わりに貢物や兵士の動員を義務付けたが、一方で豪族たちが目的としていたのはあくまで鉄であり、ヤマト王権はその地位を死守するため、ヤマト王権のワカタケルが「大王」と名乗り、鉄剣や鉄刀を関東や九州の豪族へ与えた。さらに、安定した鉄の供給を受けようと中国の南朝へ朝貢を行ったことにも触れる。

五世紀後半から六世紀にかけて、大陸の戦火から逃れるために朝鮮半島や中国から倭国に移住してきた人々が、我が国に及ぼした生活技術の発達・文字の使用・国家の起こりと発展について触れ、我が国と東アジアとのつながりを理解させる。

5. 本時の学習のねらい

本時の学習は古墳の広まりにも触れ、倭国は大和地方を中心に発展し、やがて統一に向かうことを小学校での学習内容も「包括」してとらえさせる。その際に、「大陸から移住してきた渡来人が我が国の社会に果たした役割」に気付かせる。

6. 本時の単元の評価基準

| 【関心・意欲・態度】 | 【思考・判断】 | 【資料活用の技能・表現】 | 【知識・理解】 |
|---|--|--|--|
| 出題される課題に対して関心を持ち、積極的に意見交換ができてい る。自分の学びを振り返ることができる。 | 3世紀から6世紀にかけての我が国の外交関係・勢力関係等の課題を見だし、我が国の歴史の流れを多面的・多角的に考察・判断できる。 | 東アジアの地図等の資料を活用し、我が国の歴史に於いて重要な特色を考察したうえで意見交流ができる。 | 3世紀から6世紀にかけての我が国の歴史の特色などを、東アジアの国々と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。 |

学習過程

| | 学習内容・学習活動 | 配時 | 形態 | 指導・援助の視点 | 評価の観点及び方法 |
|-----|---------------------------------|-----|----|---|---|
| 導入 | ◆古墳の始まり ◆古墳時代 ～豪族の登場～ | 5分 | 一斉 | ◆箸墓古墳の画像を提示 ・小学校での学習の復習として前方後円墳の名称を問う。 ◆古墳の出現から、力をもった支配者（豪族）が現れたことを確認。（また、前方後円墳の分布図を確認することで、初期の前方後円墳が近畿地方に集中していることから、近畿地方を中心とした勢力であることを理解させる。） ◆古墳から出土した銅鏡・埴輪・勾玉等の名称の確認。 ⇒関連して、ヤマト王権に触れる。 | ◆前方後円墳の名称が知識として定着しているか。 【知識・理解】 ◆地図を見て前方後円墳が近畿（奈良盆地）に集中していることが読み取れるか。 【資料活用の技能・表現】 |
| 展開Ⅰ | ◆倭国と朝鮮半島の関係 | 15分 | 一斉 | ◆3世紀～4世紀頃の大陸の地図を示し、朝鮮半 | |

| | | | | | |
|------------|----------------------------------|------------|-----------|---|---|
| <p>板書Ⅱ</p> | <p>◆板書 (プリント空欄①～⑨)</p> | <p>30秒</p> | <p>ペア</p> | <p>島と中国の様子及び、倭国で成立したヤマト王権とのかかわりを確認。 (発問) なぜ日本は百済の要請に応じて援護したのか。</p> | <p>◆地図を見て、当時貴重だった鉄が、朝鮮の南半島からもたらされていたことに気が付くか。 【資料活用の技能・表現】 ◆ペアワークで積極的に交流できているか。【関心・意欲・態度】</p> |
| <p>展開Ⅱ</p> | <p>◆倭国と朝鮮半島の関係 ～出土品から考察～</p> | <p>20分</p> | <p>一斉</p> | <p>◆前々回の授業で取り上げた弥生時代の農具について、木製から鉄製に進化したことに確認を兼ねて触れ、鉄がどこから伝わったのかを復習。 ・鉄の延べ板の出土地に関する資料を提示。気づいたことを発表させる。 ◎当時鉄を朝鮮から入手できたのは、ヤマト王権のみであったことを強調する。</p> | <p>◆地図を見て、朝鮮半島と近畿地方(西日本)に多く出土していることに気が付くか。 ⇒朝鮮半島から鉄が伝わったと読み取れるか。 【資料活動の技能・表現】</p> |
| | <p>◆ヤマト王権の 支配の拡大</p> | <p>30秒</p> | <p>一斉</p> | <p>◆各地の豪族は鉄を手に入れるため、ヤマト王権と結びつきを強めようとする。<u>ヤマト王権は豪族を従えるため貢物や兵士の動員を義務づけ、その見返りとして朝鮮半島の技術や鉄を与えたことに触れる。</u>⇒4世紀～5世紀にかけての前方後円墳の範囲拡大にも関係がある。</p> | |

| | | | | | |
|--|------------------------------------|--|---|--|---|
| | <p>◆倭国と中国の関係</p> <p>◆渡来人が伝えたもの</p> | | <p>ペア (適宜 3、4人)</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> | <p>(発問)</p> <p>上記下線部にあるような力関係を以前にも学習したが、どの国のどのような制度であったか。また、豪族は何を目的としていたか。</p> <p>◆5世紀後半のヤマト王権では「大王」を名乗るワカタケルが鉄剣や鉄刀を関東や九州の豪族に与えたことに関して、どのような思惑があったと考えられるかを解説。</p> <p>◆ワカタケルと刻まれた鉄剣、鉄刀の出土場所を教科書P.27 資料⑧で確認</p> <p>◆朝鮮半島からの鉄の供給が不安定なヤマト王権が、鉄を確保するためにとった行動を考えさせる。 (手掛かりとして5世紀の東アジアの地図を提示。)</p> <p>・中国の南朝の皇帝に使いを送り、力を借りて朝鮮半島諸国に対して鉄を確保させるように働きかけた。</p> <p>◆この時代に倭国に移り住んだ渡来人がもたらした技術・信仰及び文化により、倭国の人々に大きな影響を与えたことを開設する。また、外交</p> | <p>◆南朝(宋)に使いを送った理由を考えることができるか。 また、当時の鉄の貴重さを理解できているか。【思考・判断】</p> <p>◆ペアワークで積極的に交流できているか。【関心・意欲・態度】</p> <p>◆資料から、ヤマト王権の及ぶ範囲をおおよそ特定できるか。 【資料活用の技能・表現】</p> <p>◆当時の日本にとって鉄は繋がりを深めるために必要なものであったことを理解しているか。 【知識・理解】</p> <p>◆渡来人がもたらしたものについての理解ができているか。 【知識・理解】</p> |
|--|------------------------------------|--|---|--|---|

| | | | | | |
|-----------|--------------------------------------|----|----|---|-----------------------------------|
| 板書Ⅱ | ◆板書及び振り返り (プリント空欄⑩～⑭) (ふりかえろう) | 5分 | 一斉 | や政治・財政の分野でも 渡来人が活躍し、後に蘇 我氏が力をつける要素に なることにも触れる。 | ◆本時の授業の振り返りができているか。 【関心・意欲・態度】 |
| 次回の 予告 | ◆ヤマト王権と仏教伝来 | | | | |

ご高評